



令和 6 年度

区の仕事のあらまし

～ 予算(案)の概要～

令和6年2月



千代田区

■第4次基本構想のめざすべき姿等

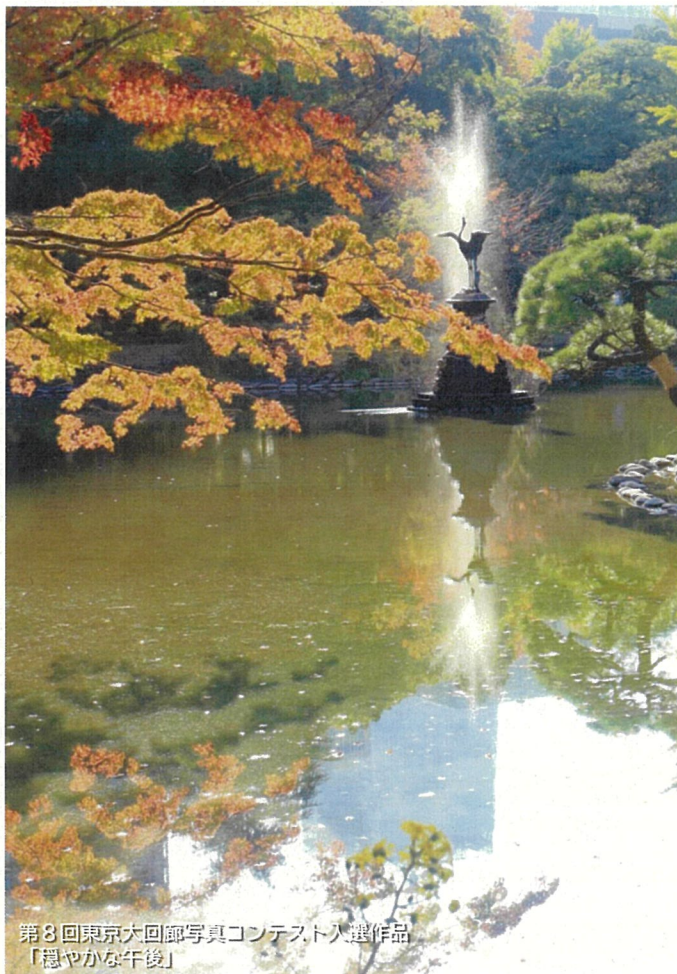
良好な環境が次世代に継承され、このまちに愛着や誇りを感じています。

将来像に向けた方向性	事項1	「2050 ゼロカーボンちよだ」をめざし、区有施設等のゼロカーボンに向けた取組みを加速する必要がある。	
	解決策	業務中枢エリアにおけるカーボンニュートラルの早期実現や、地方連携によるカーボンニュートラルを促進する。	
	背景	区は、「千代田区気候非常事態宣言」を表明し、2050年までに区内の二酸化炭素排出量実質ゼロをめざす「2050 ゼロカーボンちよだ」の実現を掲げている。目標を達成するためにも、中小事業者へのGX（※）支援など、より実効性のある取組みを推進することが課題である。 ※GX（グリーントランスフォーメーション）：脱炭素社会をめざす取組みを通じて経済社会システムを変革させ、持続可能な成長をめざすこと	
取組み	取組項目	取組内容（複数年度の視点）	令和6年度取組内容
	環境保全意識周知 関連する主な分野別計画 （千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021）	環境まつりや連携自治体へのツアー等のイベントの開催、環境カレンダーや地球環境学習チャレンジ集等の冊子配布などにより、区民等の環境保全意識の醸成を図る。	海洋におけるごみ問題やブルーカーボンの仕組み等を学び体験する機会として、子ども向けの海洋体験・学習イベントを新たに実施する。
	ヒートアイランド対策・暑熱対策の推進 関連する主な分野別計画 （千代田区ヒートアイランド対策計画）	ヒートアイランド現象を緩和するため、新築又は増改築の建物に対する緑化指導による緑化の推進やクールスポットの創出などに取り組むほか、区民や事業者への助成や普及啓発を実施する。	緑化指導を行った民間施設の新築等の際などに、雨水を一時的に貯めて時間をかけて地中へ浸透させる構造を持った植栽空間（レインガーデン）を設置した場合に補助を行う。
	地球温暖化対策の推進 関連する主な分野別計画 （千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021）	中小企業へのGX支援を推進する。 都市と地方の協働による持続可能な森林環境整備を推進する。また、森林整備協定を結ぶ自治体等で産出される木材の導入の支援を検討する。	中小企業向けGX人材育成プログラムへの補助を行う。 区内における木材利用に係るニーズ調査等を実施する。
	建築物の省エネ推進 関連する主な分野別計画 （千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021）	区内建築物の省エネ化の推進を図る。	中小企業へのGX支援として、低炭素建築物の新築又は増改築の際に活用できる「千代田区低炭素建築物助成」の助成額を拡充し、また限度額を引き上げる。

	取組項目	取組内容（複数年度の視点）	令和6年度の取組内容
取組み	街路灯のLED化 関連する主な分野別計画 （千代田区地球温暖化 対策地域推進計画 2021）	区内の非LED街路灯約5,000基 をLED化し、省エネ化の推進を 図る。	区内の街路灯についてナトリウム 灯からLED灯への建替えに係る 設計及び工事を実施する。
	ZEVごみ収集車導入 に向けた検討 関連する主な分野別計画 （第4次千代田区一般 廃棄物処理基本計画）	脱炭素社会の実現に向けては、二 酸化炭素を排出しない化石燃料 以外の燃料を使用する車両（ZEV） への転換が求められている 中、水素を燃料とするとごみ収集車 を試験的に導入するなど、ZEV ごみ収集車導入に向けた検討を 進める。	実際のごみ収集ルートで水素を燃 料とするとごみ収集車を試験的に運 用し、ZEVごみ収集車導入に向 けて効果検証等を行う。
ねらい	区内約3万の事業者の約95%（※）を占める中小企業のGXや、家庭及び区有施設等のカーボ ンニュートラルが推進され、区のゼロカーボンの実現が加速している。 ※中小企業割合は、「経済センサス－活動調査（平成28年）」における「鉱業、採石業、砂利 採取業」、「建設業」、「製造業」を除いた推計値（出典「千代田区産業振興基本計画」）		

将来像に向けた方向性	事項2	良好な環境を整備し、都心生活の質を豊かにしていく必要がある。	
	解決策	緑と水辺がつなぐ良質な空間を創出するとともに、身近な公園・児童遊園・広場等を整備及び維持管理し、活用していく。	
	背景	公園・児童遊園等の利用者ニーズは近年ますます多種多様化している。 一方で、区の公園・児童遊園等の面積は全体的に狭小である。そのため、 利用者等の幅広いニーズを把握し、地域の意向や実情及び区全体のバラ ンスなどを考慮した公園・児童遊園等の整備が課題である。	
取組み	取組項目	取組内容（複数年度の視点）	令和6年度の取組内容
	公園・児童遊園の整備 関連する主な分野別計画 （公園・児童遊園等 整備方針）	「公園・児童遊園等整備方針」の改 定を踏まえ、公園・児童遊園・広場 のリニューアルに取り組み、子ども が遊べる空間を整備する。	令和5年度に作成した「公園・児童 遊園等整備方針」の骨子を基にパ ブリックコメントや整備方針検討 会を実施し、公園・児童遊園等の 整備方針の改定をするとともに、公 園等の利用実態調査の結果を踏ま えた整備に着手する。
		「公園・児童遊園等整備方針」の改 定を踏まえ、安全で快適な公園・児 童遊園等の利用はもとより、多様な ニーズに対応できる整備や維持管 理、マネジメントを実施する。	引き続き東郷元帥記念公園の改修 整備を進めるとともに、子どもの 遊び場の充実に向けて遊具等の改 修及び整備を実施する。
ねらい	公園・児童遊園等の機能が区全体で有機的にバランスよく配置され、利用者等の多種多様なニ ーズに的確に応えている。		

将来像に向けた方向性	事項3	資源循環型社会・経済を実現する必要がある。	
	解決策	ごみの減量・資源リサイクルを推進する。	
	背景	・区内から排出される廃棄物の約80%は大規模建築物の事業系ごみであり、排出責任者の観点から、より一層のごみの減量をすることが課題である。 ・限りある資源を有効に活用していくために、ごみの発生抑制、使い終わったものの再利用、ごみの分別について、本区の特性を踏まえたうえで、区民、事業者、学校等と共に取り組むことが課題である。	
取組み	取組項目	取組内容（複数年度の視点）	令和6年度取組内容
	一般廃棄物処理基本計画の改定・推進 関連する主な分野別計画（第4次千代田区一般廃棄物処理基本計画）	区内で発生するごみの排出量を減少させるために、リフューズ、リデュース、リユース、リペア、リサイクル（5R）の視点を盛り込みながら、ごみの減量・資源リサイクルの取組みを推進するための計画として改定し、推進する。	「第4次千代田区一般廃棄物処理基本計画」を改定する。
	資源回収事業 関連する主な分野別計画（第4次千代田区一般廃棄物処理基本計画）	古紙類やプラスチックの資源化に加え、粗大ごみの金属部分の資源化を推進することにより、ごみの減量や二酸化炭素の排出抑制を図る。	令和6年度から、区内で収集された粗大ごみを選別し、金属系粗大ごみについて民間施設に持ち込むことで、金属の資源化を推進する。
	食品ロス削減の推進 関連する主な分野別計画（千代田区食品ロス削減推進計画）	区、区民、関係団体及び事業者等が連携をとりながら、食品ロス削減の取組みを進める。	「千代田区食品ロス削減推進計画」に基づき、食べ切り協力店制度の創設やフードシェアリングアプリ等を導入する。特に、10月の食ロス削減月間においては、区民・事業者等と一体となって、「もったいない」の意識醸成に向けた様々な取組みを進める。
ねらい	区内で発生する一般廃棄物の排出量及び食品ロスを削減するとともに、資源化率が高まっている。		



第8回東京大回廊写真コンテスト入選作品
「穏やかな午後」

分野別の将来像

やすらぎを感じ、
安心して快適に暮らせるまち

良 好な環境が次世代に継承され、このまちに愛着や誇りを感じています。

■ 中小企業のGXへの取組みを支援！

2億6,118万円



■ 2030区有施設ゼロカーボン達成に向けて
取組みを加速！

1億5,940万円



環境省に認定された脱炭素アドバイザーの資格受験料の一部を助成（P115）

区内中小企業を対象に、環境省に認定された脱炭素アドバイザーの資格受験料の一部を助成し、中小企業が自社の温室効果ガスを削減するための取組みを支援

中小企業を対象に低炭素建築物の新築又は増改築に係る助成額を倍増（P115）

中小企業における脱炭素化の取組みを一層促進するため、区内中小企業を対象に、二酸化炭素削減量1tあたりの助成額を25万円から50万円に拡充するとともに、助成限度額を1,000万円から2,000万円に引上げ

ZEVごみ収集車導入に向けた検討を開始（P117）

都からZEVごみ収集車を一定期間借り受け、実際のごみ収集ルートで試験的に運用し、ZEVごみ収集車導入に向けて効果検証等を実施

街路灯のLED化を推進（P116）

区が管理する街路灯のうちLED化されていない約5,000基を、令和6年度から令和12年度までの7年間でナトリウム灯からLED灯に変更して、省エネルギー化を実現

主
な
取
組
み

Z E Vごみ収集車導入に向けた検討

1,400千円 (— 千円)

新規

▶千代田清掃事務所

区は、2030（令和 12）年度までに区有施設におけるゼロカーボンの達成をめざし、クリーンエネルギー自動車の導入を推進しています。

令和 6 年度は、都から Z E Vごみ収集車（燃料電池ごみ収集車）を一定期間借り受けて、実際のごみ収集ルートで試験的に運用し、Z E Vごみ収集車導入に向けて効果検証等を行います。

R7 見込額：1 百万円 R8 見込額：完了

資源回収事業

668,945千円 (639,066 千円)

拡充

▶千代田清掃事務所

区は、循環型社会の推進のため、古紙類やプラスチック全般の回収等の各種資源化事業を展開しています。

現在、区内で収集した粗大ごみは、粗大ごみ破碎処理施設に搬入し、破碎後に焼却等処分していることから、令和 6 年度は、飯田橋車庫で収集した粗大ごみから金属を多く含む金属系粗大ごみを選別し、資源化施設に搬入・資源化することで、ごみの減量や二酸化炭素の排出抑制を図ります。

R7 見込額：669 百万円 R8 見込額：670 百万円

食品ロス削減の推進

3,299千円 (— 千円)

新規

▶千代田清掃事務所

食品ロスを削減するためには、区、区民、関係団体・事業者等がそれぞれの立場において主体的に削減活動に取り組むとともに、食品を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくことが重要です。

令和 6 年度は、廃棄される食品を消費者のニーズとマッチングさせて食品ロスを削減するフードシェアリングアプリの導入や区民、事業者、学生を対象に食品ロス削減に関するフォーラムを開催します。

R7 見込額：1 百万円 R8 見込額：1 百万円

